

事業名	国民体育大会選手派遣費	財務コード (事業)	164103
-----	-------------	---------------	--------

細事業名	国体選手派遣費等補助金
------	-------------

担当部課室	教育委員会 部 スポーツ健康 課 競技スポーツ 担当 (内線)	8432
-------	---------------------------------	------

I 事業の概要

実施期間	始期 S62 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	誰(何)を対象に 国民体育大会へ参加する監督・選手	その対象をどのような状態にして 県の代表として競技に専念できるように なっている。	結果、何に結びつけるのか 競技スポーツの振興
	国民体育大会に参加する監督・選手の派遣経費を補助し、出場しやすい環境を整えることにより競技成績の向上を図る。 ○補助先：各競技団体 ○補助対象：国民体育大会実施要項に定められている監督・選手のエントリー数 ○補助内容：旅費(甲府駅から各競技会場までの往復交通費) 宿泊料(国民体育大会宿泊要項で定められている1泊2食付宿泊料金と入湯税) 昼食費(国民体育大会宿泊要項で定められている昼食弁当代) ○補助率：10/10		
事業の内容 ※主に 23年度			
根拠法令等	スポーツ基本法、山梨県国民体育大会選手派遣交付要綱、同交付要領		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	22年度		23年度		24年度	25年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	目標値	
活動指標	参加者数(監督)	冬季 10人 本大会 44人 関プロ 76人	冬季 10人 本大会 44人 関プロ 84人	冬季 10人 本大会 44人 関プロ 75人	冬季 10人 本大会 48人 関プロ 84人	冬季 10人 本大会 48人 関プロ 84人	目標設定の考え方 ・関プロは、全種目出場・冬季スケートは、エントリー数の70%、スキーは50%、本大会は40%の出場率 データの出典等 国民体育大会実施要項、本県選手の参加人員
	参加者数(選手)	冬季 62人 本大会 297人 関プロ 643人	冬季 72人 本大会 304人 関プロ 713人	冬季 62人 本大会 313人 関プロ 619人	冬季 72人 本大会 304人 関プロ 687人	冬季 72人 本大会 304人 関プロ 687人	
	活動指標達成率 (実績値/目標値)			%			
成果指標	天皇杯得点	942点	900点	1012点	900点	900点	目標設定の考え方 天皇杯順位20位台が見込める900点を目標値とした。 データの出典等
	成果指標達成率 (実績値/目標値)			112.4 %			
決算額、予算額	49,545		59,722		73,856	71,292	成果指標によらない成果 県が選手団を編成して派遣していることから、各競技団体の選手・監督が各大会に出場しやすい環境が整えられ、各大会において本県代表としての自覚のもとに健闘しており、国体での好成績に結びついている。
(千円) うち一財額	49,545		59,722		73,856	71,292	
所要時間(直接分)	1152 時間		1152 時間		1152 時間	1152 時間	
所要時間(間接分)	61 時間		61 時間		61 時間	61 時間	
所要時間計	1,213 時間		1,213 時間		1,213 時間	1,213 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,021円×所要時間)	2,451		2,451		2,451	2,451	

III これまでの事業の見直し・改善状況

なし。

IV 活動量と成果の判断(平成23年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)		
数値判定 H23年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 ※数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること 参加者数の各大会における達成率は、関東ブロック大会87.1%、本大会101.4%、冬季国体87.8%、トータル92.1%となり、予定通りの活動量がある。
	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H23年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 ※必ず記入すること 目標値900点のところ、実績値1012点、達成率112.4%となり、意図した成果を上げている。また、県民人口順位41位の本県が、過去10年の国民体育大会において、都道府県対抗男女総合成績(天皇杯)の平均順位が26位のところ、昨年は16位の好成績を残している。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

V 見直しの必要性(平成25年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	IV以外の 判断項目
無		

・「IV以外の判断項目」の欄

○必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) ○官or民(f.民間等実施) ○官の役割分担(g.市町村等へ移管) ○効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) ※行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	IV以外の 判断項目

・「IV以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

VI 見直しの方向(平成25年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
現行どおり	

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、V見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。